

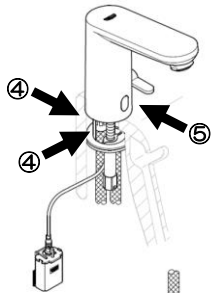
取付後の確認

4. 接続部の水漏れ

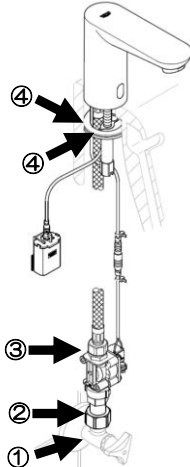
吐水、止水を数回くりかえした後、以下の箇所を点検します。

- ① 止水栓とアダプターの接続部
- ② アダプターと給水・湯給管(電磁弁)の接続部
- ③ 電磁弁と給水・湯給管の接続部(単水栓のみ)
- ④ 給水・湯給管と本体の接続部
- ⑤ 本体とレバーの接続部(混合栓のみ)

【混合栓の水漏れ確認】



【単水栓の水漏れ確認】



注意

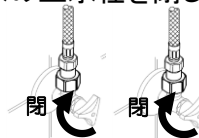
万が一漏水が確認された場合、パッキンを新品に取り替えた上、再度規定のトルクで締付を行ってください。

5. ストレーナーの清掃

通水後に吐水量が少ない等、不具合が生じた場合はストレーナーの清掃を行ってください。

配管内にごみやシールテープ等が付着していることがあります。

1. 湯水の止水栓を閉じます。

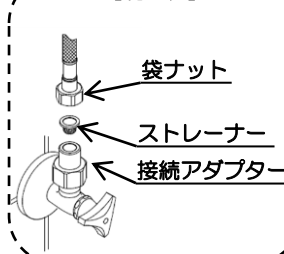


注意

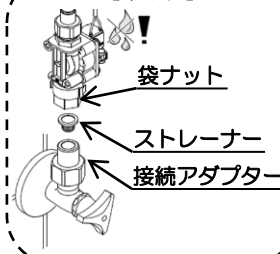
ストレーナーの清掃は、必ず止水栓を閉じてから行って下さい

2. 接続アダプターからストレーナーを取外します。

【混合栓】



【単水栓】



3. ホルダーからストレーナーを取外し、ストレーナーに付着したゴミを取り除きます。



注意

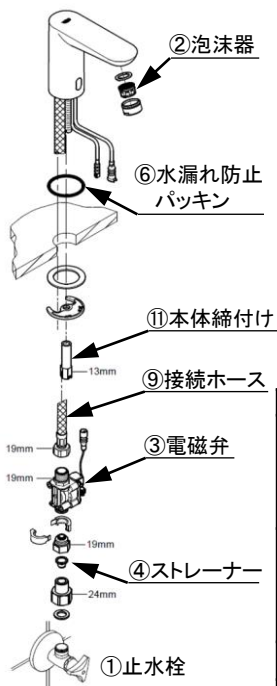
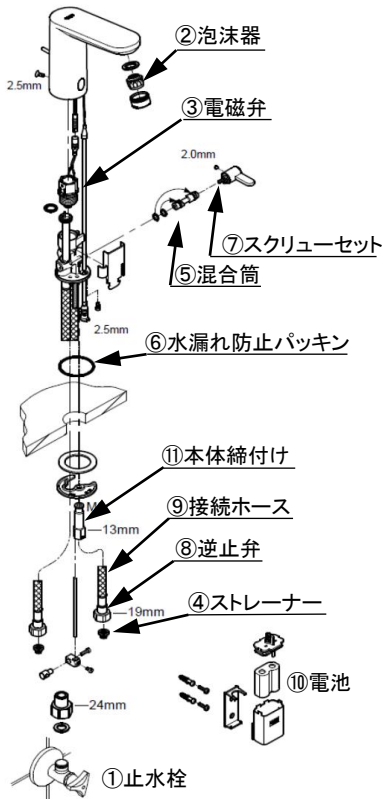
※作業前は止水栓を閉めて、再度開栓時には必ず組み立てを完了しておいてください。
※清掃後は接続部に水漏れがないか確認してください。

故障と点検

※取付け後、万一故障した際は、以下の要領で分解および点検を行ってください。

【混合栓の点検】

【単水栓の点検】



付属の電池は動作確認用です。開閉時に電池が消耗している場合がありますのでお早めに新しい電池をご用意ください。



点滅で電池交換時期をお知らせします



現象	点検箇所	処置
吐水量が少ない	①	圧力は十分か？十分開いているか？
	②④⑧	ゴミかみはないか？
	⑨	破損・ねじれ・ゆるみはないか？
水が止まらない	③	破損はないか？
	⑩	取付けを確認
	⑪	コードの破損はないか？
レバーがガタつく	⑤⑦	破損・ゆるみはないか？
カウンター内の漏水	⑥⑨	取付けを確認・破損はないか？
水が出ない	⑩	取付けを確認
	⑪	コードの破損はないか？

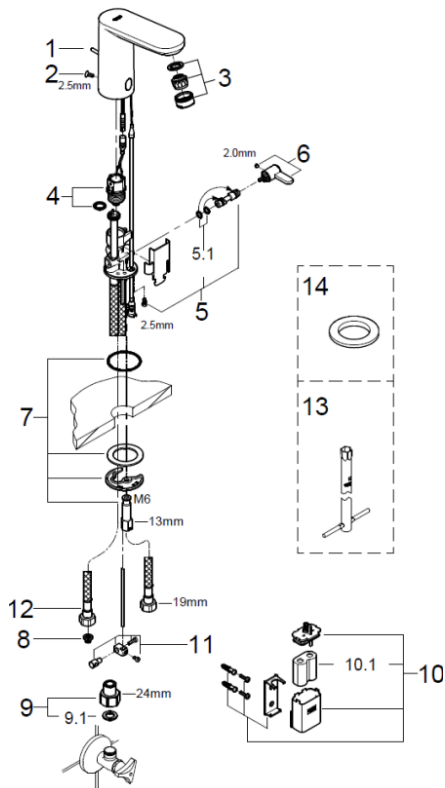
洗面自動混合栓・単水栓据付説明書 (お客様にお渡しください)

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- この据付説明書に記載されていない方法で据付され、それが原因で故障が生じた場合は、商品の保証を致しかねますのでご注意ください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この据付説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。
- 同梱部材の数量、キズ等の確認をしてください。

各部名称

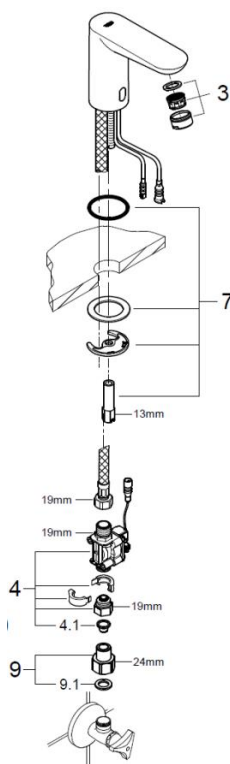
混合栓

3633110J・JP2109** (引棒あり)
3632710J・JP2108** (引棒なし)



単水栓

3627100J
JP2107**・JP5958**



図番	名称
1	引棒
2	止ビス
3	エアレータ
4	電磁弁
4.1	ストレーナー
5	混合筒
6	温度調整レバー
7	締付セット
8	ストレーナー
9	アダプター
9.1	接続パッキン
10	電池ボックスセット
10.1	電池 (CR-P2)
11	ジョイントピース
12	逆止弁コーン
13	工具
14	化粧プレート

品番末尾の数字**は、納入時期により変更になります。

付属の電池は動作確認用です。

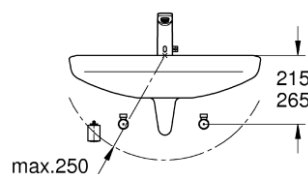
開栓時に電池が消耗している場合がありますので
お早めに新しい電池をご用意ください。



点滅で電池交換時期を
お知らせします



市販品
CR-P2



水栓設置面から止水栓までの
距離は215mm~265mm、
水栓設置面から電池ボックス
中心までの距離は250mm以内
に収まるよう、設置してください。

安全上の注意

据付前にこの「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく据付してください。
ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠注意

湯水を逆に配管しないでください。

※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。

お客様に引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。

寒冷地仕様ではありませんので、水栓内の水抜きには工具が必要です。

※凍結破損で漏水し、家財を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

据付完了後は、配管接続部分及び水栓から、水漏れの無いことを確認してください。

※漏水で、家財を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

上水道以外は使用しないでください。

※内部腐食により、発火、ショート、感電、故障の原因となります。

バスルーム等の水のかかる所や、表面に水滴を生じるような湿気の多い場所では使用しないでください。

※発火、ショート、感電、故障の原因となります。

使用条件

●給水、給湯圧力

◇貯湯式温水器(ボイラー、電気温水器)と組み合わせる場合

最低必要圧力0.1MPa[1kgf/cm²](流動圧)～最高圧力0.74MPa[7.5kgf/cm²](静水圧)の範囲とします。

給水・給湯圧力は必ず同圧にしてください。

やむなく圧力差が生じる場合は最大3:1以内になるようにしてください。

◇ガス給湯器(比例制御式:16号相当)と組み合わせる場合

最低必要圧力A+0.07MPa[0.7kgf/cm²](流動圧)～最高圧力0.74MPa[7.5kgf/cm²](静水圧)の範囲とします。

給水・給湯圧力は必ず同圧にしてください。

やむなく圧力差が生じる場合は最大3:1以内になるようにしてください。

※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。

※以上は下記の条件を想定して設定されております。

ガス給湯器との組合せ条件が最も悪い冬期条件(給水温度5℃、吐出温度40℃)によるものです。

給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。

ガス給湯器の温度調節は最高温度(60℃)設定です。温度設定は60℃以上で使用しないでください。

◇給水圧力が0.74MPa[7.5kgf/cm²]を超える場合は、市販の減圧弁等で適正圧力に減圧してください。

●水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、別途止水栓の設置をおすすめします。

●給湯に蒸気を使用しないでください。

●水栓下部を点検出来るように必ず点検窓を設けてください。

●電池ボックスの位置は、水が掛からない場所を選定し 電池交換が容易な位置に設置してください。

●電池用コードは延長できませんので、コードの長さ400mmの範囲で接続してください。

●極端に湿気のある状況でのご使用、設置はおやめください。

●センサーが働くような洗面器では、ご使用できません。

(正面に障害物がありますとセンサーが働きます)

●水栓設置面から止水栓までの距離は215mm～265mm

水栓設置面から電池ボックス中心までの距離は250mm以内に収まるよう、設置してください。

据付前の注意

●給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

●給水は上水道に接続してください。

※井戸水、温泉水など異物を多く含む水には使用できません。

●開梱、取り付けの際には商品の表面に傷をつけないように十分に注意してください。

●配管接続の前に、必ず配管中の異物(ゴミ、砂等)を完全に洗い流してください。

●配管接続部を隠ぺいしないでください。

●給水・給湯ホース緩み防止の為、給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

●接続アダプターの接続ねじは平行ねじG1/2です。テーパねじ(TP1/2,R1/2)には使用しないでください。

また止水には付属のパッキンを必ず使用してください。

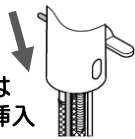
●バッテリーは6Vリチウム電池(CR-P2)を使用します。他の電池は使用しないでください。

●ユニットバスに使用する場合は、壁面の材質を考慮した取付ビスをご用意してください。

本体据付手順

注意

引棒は先に挿入



- ・設置前にカウンター上部の汚れを拭き取ってください。
- ・引棒タイプを設置の場合は据付前に本体へ引棒を挿し込んでください。

注意



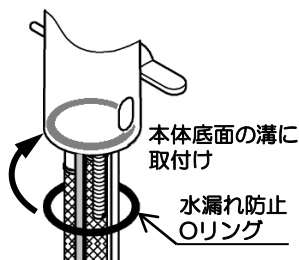
- ・固定には市販品のソケットレンチ (対面巾13mm) もしくは別売の推奨ソケットレンチ等を使用して確実に締め付けてください。
- ・水栓本体が取り付け穴の中心になるように取り付けてください。
- ・本体は確実に固定してください。動いてしまう場合は再度締付ナットを締め直してください。
- ・本体の固定の際は給水・給湯ホースに無理な力が加わらないようにしてください。
- ・給水・給湯ホースは折れたり、つぶれないよう注意してください。

本体の取付け

1. 給水・給湯ホース側から水漏れ防止リングを取付けます。

注意

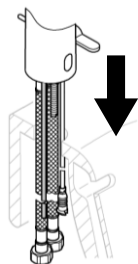
水漏れ防止リングは溝にはめこみ、ずれないように注意してください。



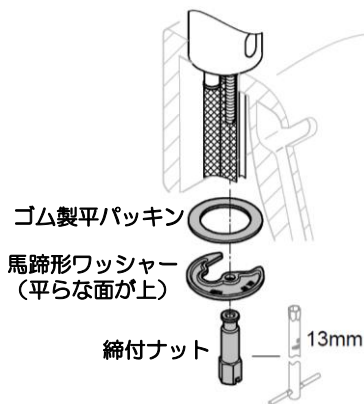
2. 本体をカウンター上部の取付穴から挿入します。

注意

リングが溝からズレると漏水の原因になります。ご注意ください。



3. 吐水口の向きに注意しながらゴム製平パッキン、馬蹄形ワッシャーを挿入し、締付ナットで固定します。



注意

- ・電源ケーブルを挟みこまないよう十分ご注意ください。
- ・締付ナットを固定の際は、必ず工具を使用してください。

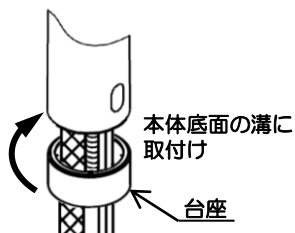
JP5958** (特殊仕様品) ご使用時の本体取付け

JP5958**には特殊仕様として台座 (非売品) が付属します。以下の手順で本体を取付けてください。

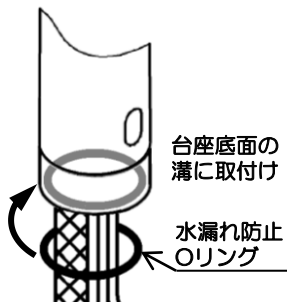
1. 給水・給湯ホース側から台座を取付けます。

注意

電源ケーブルを挟まないよう、ご注意ください。



2. 給水・給湯ホース側から水漏れ防止リングを取付けます。



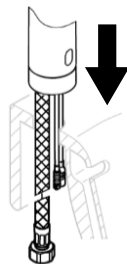
注意

水漏れ防止リングは溝にはめこみ、ずれないように注意してください。

3. 本体をカウンター上部の取付穴から挿入します。

注意

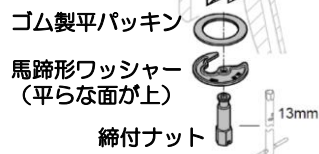
水漏れ防止リングが溝からズレると漏水の原因になります。ご注意ください。



4. 吐水口の向きに注意しながらゴム製平パッキン、馬蹄形ワッシャーを挿入し、締付ナットで固定します。

注意

- ・電源ケーブルを挟みこまないよう十分ご注意ください。
- ・締付ナットを固定の際は、必ず工具を使用してください。



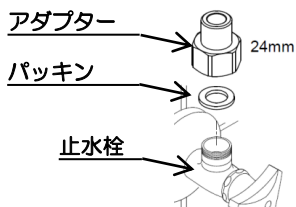
本体据付手順

給水・給湯ホースの接続

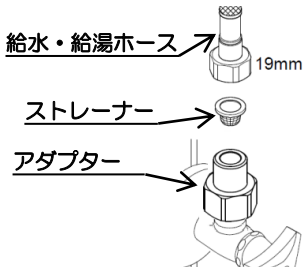
給水・給湯ホースの単水栓と湯水混合栓により異なります。施工方法に従って正しく接続してください。

湯水混合栓の接続方法

1. 止水栓にアダプターをねじ込み確実に固定します。



2. 給水・給湯ホースをアダプターに接続します。



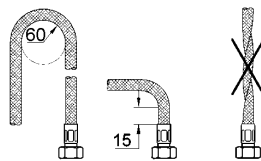
注意

- ・給水・給湯ホースにねじれ・折れが無いようご注意ください。
- ・給水・給湯ホースを曲げる場合は曲げ半径60mm以上確保して下さい。

※漏水の原因になります。

- ・締付は200～300kgf・cmのトルクで行ってください。

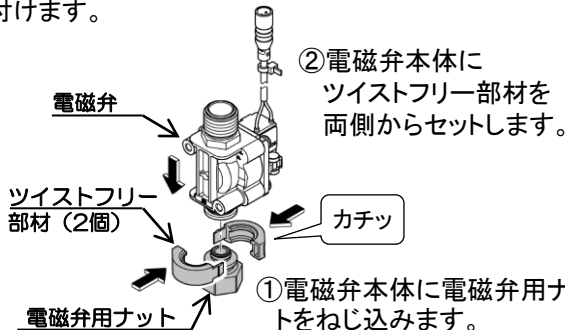
初期の締付が弱いと漏水の原因になります。



単水栓の接続方法

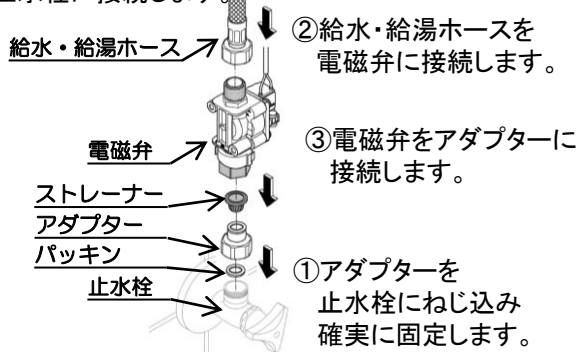
1. 【電磁弁の準備】

電磁弁に電磁弁用ナット、ツイストフリー部材を取付けます。



2. 【止水栓へ接続】

図に従ってアダプター、電磁弁、給水・給湯ホースを止水栓に接続します。



高温リミッターの取付け(湯水混合栓のみ)

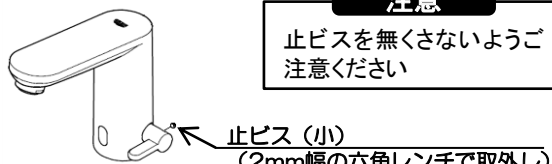
注意

瞬間湯沸かし器をご使用の場合温度設定が低すぎると湯量が減少し、瞬間湯沸かし器が消火することがあります。

ポイント

給湯温度が高い場合など温度調整レバーが高温側に回る角度を制限することができます。

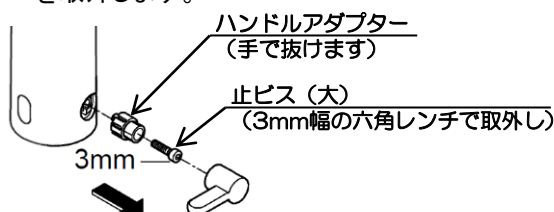
1. 温度調整レバーを吐水口側に倒した状態にして止ビスを外します。



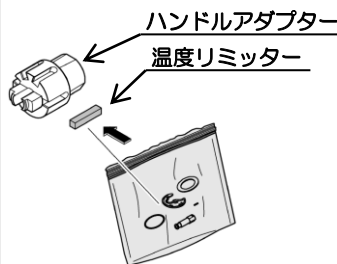
注意

止ビスを無くさないようご注意ください

2. レバーを引き抜き、内部の止ビスを外しハンドルアダプターを取外します。



3. ハンドルアダプターの溝に高温リミッター用のピンを取付けます。

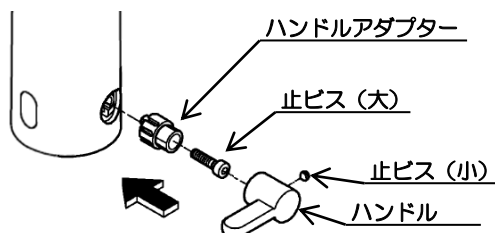


ポイント

温度リミッターを取付けることにより、レバーの回転範囲が変わります。本体取付側から見て右側へ取付けるほど高温側まで回るようになります。※吐水温度は給湯温度により変わります。



4. 水栓本体に、ハンドルアダプター、止ビス(大)、ハンドル、止ビス(小)の順で取付けます。



本体据付手順

電池ボックスの取付け

注意

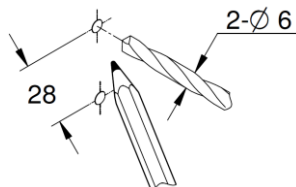
水栓設置面から電池ボックス中心までの距離は必ず250mm以下にしてください。



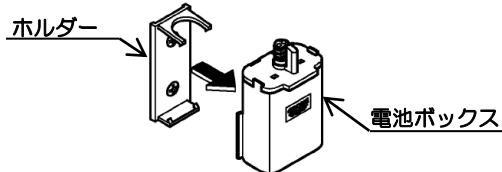
1. 電池ボックス設置位置に、ドリル等でφ6mmの穴を2ヶ所あけます。

ポイント

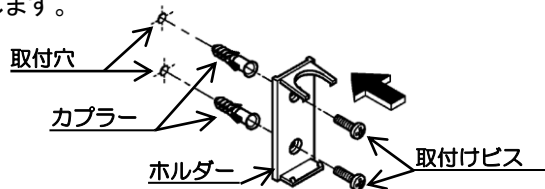
電池ボックス設置位置がビスを容易に取付けられる材質の場合、取付穴は必要ありません。



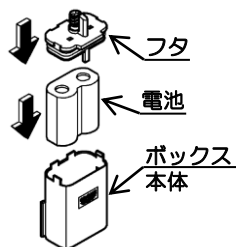
2. 電池ボックスからホルダーを取外します。



3. カプラーを取付穴に差込み、取付ビスでホルダーを固定します。



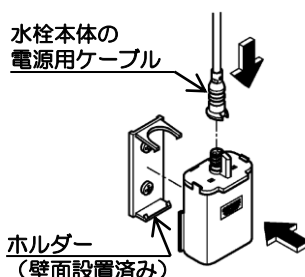
4. 電池ボックスに電池をセットし、フタをします。



注意

電池ボックスに電池を入れる際は電池とフタの向きにご注意ください。
※電池ボックスは樹脂性です。取り扱いにはご注意ください。

5. 水栓本体の電源用ケーブルを電池ボックスに接続し、電池ボックスをホルダーに取付けます。



注意

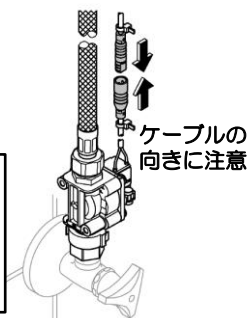
電源ボックスの凸部と電源用ケーブルの凹部を合わせて接続してください。



6. 【単水栓の場合のみ】水栓本体の電磁弁用ケーブルと電磁弁本体の電磁弁用ケーブルを接続します。

注意

電磁弁接続は、ケーブル先端の平らな面を合わせて差し込んでください。
※無理に押し込もうとすると破損の原因になります。



取付後の確認

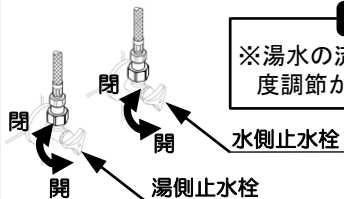
据付完了後、必ず下記の項目を確認して下さい。

1. 水量・湯音の調節

お使いいただく現場で、適量・適温が得られるよう、止水栓で調節してください。

ポイント

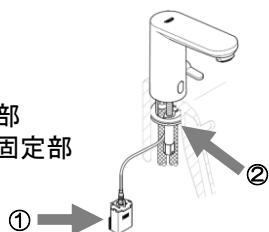
※湯水の流量を同程度にすると温度調節がしやすくなります。



2. 固定部のゆるみ

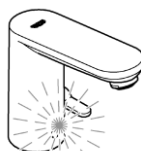
固定部にゆるみが無いかどうか確認します。

- ① 壁と電池ボックスの固定部
- ② カウンターと水栓本体の固定部



3. 電池の確認

付属の電池は動作確認用です。開梱時に電池が消耗している場合がありますので、お早めに新しい電池をご用意ください。



点滅で電池交換時期をお知らせします



ポイント

電池が消耗すると、本体前のセンサー（黒い楕円状の部分）が断続的に点滅します。電池交換時期を知らせるサインですので、市販品「CR-P2」をご用意・交換してください。
※電池の寿命は、目安として約3~5年間です